

警備一、一第三六號

昭和二十年十月十六日

警視廳警務部長

東京都終戦連絡事務局 殿

聯合軍管下進駐状況ニ関スル件

本月十五日十七時現在ニ於ケル標記ノ件別
表ノ通ニ有之候條此致報告(通報)候也
尚管下各警備隊大隊長及警察署長ニ於
テハ警備上ノ参考ニ資セラルベシ

主官一ノ部

(總務二課ヨリ左記ノ由ノ寫作成送付候)

寫送付先

中央軍務局(總裁次長、右部部長)

外務省(大臣次官、局議長)

近取等

進駐開始日		進駐場所		所轄者		進駐人員		備要	
九月十一日	〃	英國大使館	〃	〃	八〇	英國將官一任管下警備兵			
九月十五日	〃	大藏省	〃	〃	一三〇	總司令部宿舍			
九月十六日	〃	午ノ刺會館	〃	〃	八五〇	第十三航空隊通信隊 ワイヤード中隊			
九月十八日	〃	九段借行社	〃	〃	一八〇	特務機關部(ハ・エ・エ)部隊			
九月十七日	〃	第一相互ビル	〃	〃	不詳	總司令部事務所			
〃	〃	中央金庫	〃	〃	〃	全一右			
〃	〃	海上ビル	〃	〃	五〇〇	新館 極東空軍宿舍			
〃	〃	郵船ビル	〃	〃	五〇〇	極東空軍司令部宿舍			
〃	〃	明治生命ビル	〃	〃	六〇〇	極東空軍司令部事務所			
九月八日	〃	帝國ホテル	〃	〃	六〇	總司令部將官宿舍			
九月十七日	〃	中央郵便局	〃	〃	五〇	檢閲事務ノタメ			
〃	〃	中央電話局	〃	〃	三〇	全右			
〃	〃	中央電信局	〃	〃	一八	全右			
〃	〃	放送會館	〃	〃	五〇	全右			
九月二十五日	〃	帝國生命(日比谷)ビル	〃	〃	五〇〇	陸軍憲兵司令部 中隊			
〃	〃	三松ビル	〃	〃					
十月二日	〃	三信ビル	〃	〃	一七五	通信隊			

聯合軍進駐狀況一覽表 (昭和二十年十月十日午後五時現在)

進駐部
司令官 氏

十月一日	"	九月二十五日	九月二十日	九月十七日	九月八日	九月十九日	九月十九日	九月十六日	九月十九日	"	九月十八日	九月二十二日	九月二十五日	十月二日	"	九月二十五日	
帝國水産株式会社	日産信託株式會社	日本燃料會社	西久保櫻川町三松組	水交社	芝區新橋一三二第一ホテル	海軍經理學校	京橋區銀座西五三マツダビル	日本海員救済會	全澳聯ビル	明石國民學校	京橋區明石町五三聖路加病院	女子青年會館	主婦友社	神田區錦町三二八學士會館	アメリカンクラブ	有樂町一七森ビル	松本ビル
"	"	"	"	"	愛宕	"	"	"	"	"	"	"	神田	"	"	"	丸の内
三五	三五	八	三〇	一五〇	六五〇	六〇〇	二〇〇	六〇〇	六〇〇	六二	七五	六〇	一五	不詳	五〇	六〇	
帝國精糖部兵站部(責任者KEEフィールド)	自動車整備二使用	報道関係宿舍	總司令部法務關係事務所	公石(後宮級)	總司令部宿舍	騎兵第一師團七聯隊	極東空軍司令部士官宿舍	第八軍第四二病院隊	第八軍第四二病院隊	第二世將校	二階及至四階看護婦宿舍 五階寫真班員	極東空軍士官宿舍	第八軍司令部軍政部	日米航空隊連絡事務所	第八軍航空隊將校宿舍	第八軍航空隊宿舍	第八軍航空隊宿舍

十月三日	芝區海岸通一、一九 水産化學工業冷凍倉庫	愛宕	一五	マツカサト司令部ニテ使用
十月五日	女子會館 芝公園一八号地	表町	三五	總司令部宿舎(對官級)
九月八日	赤坂區榎町一 米國大使館	表町	三五	マツカサト司令部宿舎(元月七日着)
九月十九日	赤坂區榎町三 第一聯隊	四谷	四〇	第一聯隊(憲兵隊)
九月十五日	四谷區榎町一 日本青年館(赤坂校舎)	四谷	一〇〇	技研部隊
九月二十日	本郷町二 第三國民學校	月島	三二	衛生隊
八月八日	月島四號埋立地	月島	五〇	陸軍海上輸送隊通信班
十月二日	月島三号地 中央食糧營團月島倉庫	水上	一〇	入港狀況 芝浦港(三連)其他上陸用 (元月七日着)
九月八日	東京港	水上	三〇	騎兵第八聯隊(ラドリ大佐)
九月十五日	麻布區新龍土町一三 麻布三聯隊	六本木	三〇	陸軍海上輸送隊通信班 (元月七日着)
八月八日	深川七號埋立地	深川	五〇	騎兵第二旅團七聯隊
九月二十日	深川區越中島八 高等南船學校東京分校	蒲田	五〇	航空輸送隊
九月十三日	東京飛行場	蒲田	九〇	航空輸送隊
九月十六日	蒲田區東二郷三二六 宮田製糖所	蒲田	一〇〇	第一二軍第四戰車隊 第六七戰車隊(對官級)
九月十三日	小知和重工業株式會社 目黒區駒場町八六一 元前田邸	目黒	一〇	陸軍司令部(元五月着)
九月二十日	世田谷區世田谷四丁目 陸軍機甲整備學校	世田谷	一二	技研部隊
九月十九日	中野區園町 中野憲兵學校	中野	二〇	騎兵第一師團第一旅團 夕八〇大佐
九月十六日	杉並區天沼三、四五七 海外同胞訓練所	荻窪	八〇	航空隊將校及下士官宿舎

九月 二十日	"	"	九月 三日	十月 六日	" 十七日	九月 十三日	"	"	" 三日	九月 二十一日	十月 二日	(三多摩地区)	計	" 八日	" 十六日	" 二十一日	九月 十三日
陸軍航空整備學校	北多摩郡村山村 陸軍航空整備學校	立川飛行機製作所	立川市昭和町 昭和飛行機製作所	東京重機工業株式會社 狹江村止和泉一丁目	日本製鋼株式會社 府中市	陸軍燃料本部 府中市八幡宿	北多摩郡調布町 調布飛行場倉庫改修工場	陸軍造兵廠技術者養成所 志生村根岸	南多摩郡南村合森 犬塚製作所	南多摩郡日野町 日野重工業工場	南多摩郡稲城村 如工廠		五十六ヶ所	目黒區上目黒八丁目 陸軍輜重兵學校	代々木練兵場	成増飛行場	板橋區練馬土支田二丁目 海軍大和通信隊倉庫所
"	"	"	立川	"	"	"	府中	"	所田	八王子	八王子			目黒	代々木		練馬
一〇〇〇	三〇〇	三三〇	一五〇	六〇	一五〇	五三〇	五〇〇	五〇〇	三〇〇	六〇〇	三〇		一九五七			四〇	二〇
第九一飛行師團サイス少將 近衛中四〇〇名進駐、予定		第五空軍オウルフ少將	第二四中隊日隊附ホエト大尉	第八軍九六衛生大隊ウイ ンクス大尉近衛中四〇〇名進駐、予定	第八軍一部シマー大尉	高真偵察隊 デウイス中佐	第三瀑撃隊トムスン大佐	相模病院	工兵第一三一聯隊	第八空軍ミームス大佐				騎兵第一師團留守者一〇〇名 陸軍中隊十名百五名麻布 陸軍第一師團進駐確定下 中隊駐三多摩現東京駐 隊司令部ト多摩現東京駐	第十師團留守者一〇〇名 中隊留守者六〇名 中隊留守者六〇名	警備兵	警備兵

◎

九月 二十三日	十二日	三日	十九日	計	總計
北多摩部小平町 陸軍經理學校	陸軍第三技術研究所 小金井所	西多摩部福生町 航空審査部	立川航空廠分散倉庫 平井村	一六ヶ所	七二ヶ所
武藏野	"	青梅	五日市		
二五〇〇	二五〇	二三〇〇	二〇〇	一三六〇	三三二四〇
第十師団兵隊イノムラヤ大佐	騎兵アニス中尉	航空隊	歩兵ジヨルダン大尉		

註 ◎印ヲ附セルモノハ十月一日以降(既報)新タニ進駐シ又ハ異動アリ
タルモノヲ示ス

5
10
3
4
10

九月十七日	麩町區丸ノ内二ノ一六	丸ノ内	六〇〇	海軍航空軍司令部事務所
九月八日	内幸町一ノ一 帝國ホテル	"	六〇	統司令部將官宿舍
九月十七日	中央郵便局 丸ノ内二ノ三	"	五〇	檢閱事務メタメ
"	中央電報局 大手町二ノ四	"	三〇	同右
"	中央電信局 内幸町	"	一八	同右
"	放送會館 有樂町一ノ二	"	五〇	同右
月廿五日	帝國生命(日比谷ビル)	"	五〇〇	米陸軍憲兵司令部 ハドマン中將
月二日	三信ビル	"	一七五〇	シグナル・コルプスト ルプス通信隊

0304

九月十一日	麩町一ノ番町一	英大使館	八〇	英陸軍第一、佐官以下警備兵
十五日	大塚	警備隊	一三〇〇	總司令部宿舍
十六日	九段一ノ三	午ヶ窪會館	八五〇	第十三航空隊通信隊 ワイヤード中佐
十八日	九段一ノ二	有樂町一ノ二	一八〇	警備隊第八八〇I部隊
十七日	第一福至ビル	丸ノ内	不詳	總司令部事務所
"	中央金庫	"	同右	"
"	丸ノ内一ノ六	"	五〇〇	新館 海軍航空軍宿舍
"	丸ノ内二ノ〇	"	五〇〇	海軍航空軍司令部事務所

聯合軍進駐状況一覽表
昭和二十年十月十五日
午後五時現在

總務二課

0303

十月 一日	帝國水産 芝統ノ 精工會社	三 五	米國補給部兵站部ニ於テ使用 (責任者K. E. E. ティール少佐)
二十五日	日産自動車整備工場	三 五	自働車整備ニ使用
三十日	田村町五ノ九 日本燃料會社	八	報道關係宿舍
十七日	西久保櫻川町一 水交社	一 五〇	同右(佐官級)
八日	芝區新橋一三二 第一ホテル	六 五〇	總司令部宿舎
	小田原町三ノ一 海軍經理學校	六 〇〇	騎兵第一師團七聯隊
	銀座西五ノ三 マツダビル	三 〇〇	極東空軍司令部士官宿舎
九月 十九日	京橋區明石町三四 日本海員液濟會		築地

0306

九月 二十五日	丸ノ内二ノ八 カシハラ	一 五	第八軍司令部軍政部
二十三日	神田區錦町三ノ二八 學生會館	六 〇	極東空軍士官宿舎
十八日	駿河臺一ノ六 主婦之友社	七 五	二階乃至四階看護婦宿舎 五階看護班員
十九日	京橋區明石町五三 聖路加病院	六 二	第二世將校
十九日	明石國民學校 全漁聯ト	六 〇〇	第八軍第四二病院隊
七月 二日	有樂町一ノ七 大生堂	不 詳	日米航空隊連絡事務所
九月 二十五日	丸ノ内二ノ八 カシハラ	五 〇	第八軍航空隊將校宿舎
九月 二十五日	丸ノ内一ノ二 帝國生命本社	六 〇	第八軍航空隊宿舎

0305

九月 八日	深川七號立地	深川	五〇〇	陸軍省 陸軍部 陸軍省 陸軍部
二十日	深川區越中島八 高商船校東京分校	深川	五〇〇	陸軍省 陸軍部 陸軍省 陸軍部
十日	東京飛行場	蒲田	九〇〇	陸軍省 陸軍部 陸軍省 陸軍部
十六日	蒲田區東六郷二ノ六 官田製作所	蒲田	〇〇〇	陸軍省 陸軍部 陸軍省 陸軍部
十日	小知重工業株式會社	目黒	一〇〇	陸軍省 陸軍部 陸軍省 陸軍部
二十日	目黒區駒場町八六 元前田邸	目黒	一〇〇	陸軍省 陸軍部 陸軍省 陸軍部
十九日	世田谷町世田谷四丁目 陸軍省甲整備學校	世田谷	一二〇	陸軍省 陸軍部 陸軍省 陸軍部
十六日	中野區西町 中野區兵學校	中野	二〇〇	陸軍省 陸軍部 陸軍省 陸軍部
十六日	杉並區天沼三ノ五四七 海外同胞訓練所	杉並	八〇	陸軍省 陸軍部 陸軍省 陸軍部

0308

十月 五日	芝區海岸一ノ一九 水産化學工業會館	芝	一五〇	陸軍省 陸軍部 陸軍省 陸軍部
九月 八日	芝區芝公園一八號地 女子會館	芝	〇〇	陸軍省 陸軍部 陸軍省 陸軍部
十九日	赤坂區櫻町一 米國大使館	赤坂	五〇	陸軍省 陸軍部 陸軍省 陸軍部
十九日	赤坂區櫻町二 第一聯隊	赤坂	四〇〇	陸軍省 陸軍部 陸軍省 陸軍部
二十日	四谷區櫻丘一 日本青年館(外務省技術會)	四谷	二〇〇	陸軍省 陸軍部 陸軍省 陸軍部
八月 八日	月島四號埋立地 第一國民學校	月島	二〇〇	陸軍省 陸軍部 陸軍省 陸軍部
九月 六日	月島二號地 中央食料會 月島會館	月島	一〇〇	陸軍省 陸軍部 陸軍省 陸軍部
九月 十五日	水田上 六本木	水田上	〇〇	陸軍省 陸軍部 陸軍省 陸軍部
十月 二日	入海軍二巡其他上陸用舟艇 十餘内外方機校往復中	入海軍	〇〇	陸軍省 陸軍部 陸軍省 陸軍部

0307

九月三日	立川市昭和田町 昭和飛行機製作所	立川	一五〇	第一六四中隊B隊附がエリ大尉
十月六日	東京重機工業株式會社 江村上和泉一〇七		六〇	米第八連第九六衛生大尉 ンガス大尉近田中尉者六〇 米進駐ノ子守
十月十七日	府中町 日本製鋼所製作所		一五〇	第八軍ノ二部シヤノ大尉
十月十三日	府中町八幡宿 陸軍燃料本部		五三〇	寫眞偵察隊デヴィス中佐
九月三日	南多摩郡南村金味 大森製作所 忠生村棧岸 陸軍航空技術者養成所 北多摩郡彌布町 彌布飛行場空倉製飛行機工場	町田 府中	三〇〇 五〇〇 五〇〇 五〇〇	工兵第一三一聯隊 相模病院 第三爆撃隊トムスン中佐

0310

九月十三日	赤橋區橋詰土支出町一ノ七四六 海軍大和通信隊分室	赤橋	二〇〇	整備兵
九月廿一日	成城系行場		四〇〇	整備兵
九月十六日	後服本蔵	赤坂		第十一旅団整備兵 一三〇〇名 陸中ノ第十月十六日表出 水戸士團在機二機
九月八日	代々木練兵場	代々木谷		兵第一師團定員一三〇〇名 陸中ノ第十月一日迄二機 整備兵二機完了
九月五日	目黒區上目黒八丁目 陸軍航空兵学校	目黒	一九五七〇	第五師團整備兵 陸中ノ第十月十六日表出 整備兵二機完了 陸中ノ第十月十六日表出 整備兵二機完了
九月廿一日	加藤製糖工場	八王子	三〇〇	八空軍シエリ大佐
九月廿一日	陸軍航空工場	八王子	六〇〇	
計	五十六ヶ所			

0309

九月	北多摩郡小平町	武藏野二五〇〇	第十六步兵隊
二十三日	陸軍經理學校	ワタリノ...	...
十二日	陸軍第三技術研究所	二五〇	騎兵...
三日	西多摩郡生田町	青梅二五〇〇	航空隊
十九日	立川航空工廠分散倉庫	二〇〇	歩兵...
計	一六ヶ所	一二七〇	
總計	七二ヶ所	三三二四〇	

註 ◎印ヲ附セルモノハ十月一日以降ノ既報ノ新ニ進駐シタル所
アリタルモノヲ示ス

大日本帝國政府

絲綢部長
館公秘第...
昭和二十二年十月十八日
在館山終戰連絡地方事務局連絡官林...
終戰連絡中央事務局總裁兒玉謙次殿
在館山進駐部隊兵員武器等一部輸送ニ關スル件
在館山米軍部隊一部千葉(下志津)方面進駐ニ關スル件
十月十五日館公秘第四六號ヲ以テ報告ノ通ナル處十八日
更ニ安房北條驛ヨリ左記ノ通り兵員武器等ノ輸送アリ
記
一七時五十分北條驛仕立特別列車 輸送先千葉驛
兵員 五二名
大型トナリク 一六輛

圖定規格55(1)X(2)規格

大日本帝國政府

ジープ	一輛	輸送先津田沼驛
二十五時六分 貨物列車	四門	以上
小經砲	四輛	尚十月十五日當地區ヨリ千葉方面ニ進駐セシハ下志津
大型トラック	一輛	飛行場駐屯部隊ニ對スル増加部隊ナリニ趣ナリ
ジープ	一輛	右報告申進ス

(國定規格 B5 21 × 30 厘米)

館公第七六號

昭和二十年十二月四日

在館山戰連絡地方事務局連絡官 林 安
終戰連絡中
終戰連絡中

館山市に於て進駐軍慰安所問題に關する件

一 慰安所に關するカニングハム准將意見トシテ對する我方回答

十二月一日カニングハム准將來ニ依り、本官及館山市各關係責任者、米第百十二聯隊司令官部ニ出頭ス

參進來者左ノ如シ

米軍側

カニングハム准將 (Brigadier General Cunningham)

リグス少佐 (Major Riggs)

外務省



0314

A/100.2

「ゴホスライヌ大尉(軍醫官) (Captain Gonovits)」
他一名

日本側

終戰連絡地方事務局連絡官

林 安

外務省臨時通譯

佐田 洋

館山市市長

關野 周治

館山警察署署長

笠原 浩

館山保健所長

矢崎 科郎

本件に關してハ十一月十五日以來米軍ノ要求ニ基キ日本側一館山保健所長矢崎科郎、館山市醫師會支部長川名正義、治療醫田村利用、全登人島達雄)ニ於テ館山在住藝者 酌婦約百三十名(藝者約百名、酌婦約三十名)ニ對シ 肉眼ニ依ル檢診、顯微鏡檢

外務省

0315

查、ワッセルマン反應検査ヲ以テ實施シタル結果、僅ニ二十
 三名ノ健康者ヲ得タル實狀ナル處、右實狀報告ニ
 接シ、十二月一日「カ」准將ハ前記ノ通、祇方關係者ヲ
 招致シタル次第ニシテ、極メテ嚴肅ニ在リ、意見ヲ發表セリ
 (1) 日本當局ノ慰安所(目下館山市ニ三十箇所)藝妓
 酌婦(一三四名)ニ對シ、協力全然認め得ラズ不
 誠意、甚クシキモノト謂フヘシ
 (2) 米兵ノ罹病者、甚ク大ニ依リ、之カ是正ノ爲、更ニ
 米軍ニ於テ接客婦ニ對シ、嚴重ニ檢診ヲ行ヒ
 (十二月四日實施)健康ナルモノヲ十軒以内ノ接客
 所ニ收容シ、日本警察署ニ於テハ右ニ對シ、日本人ノ出入ヲ
 禁止スルト共ニ米憲兵ニ於テモ、米軍カ右指定ノ
 接客所ニ出入スルヲ取締ルヘシ

外務省

又日本警察署ハ罹病婦ノ米兵ニ接スルコトヲ嚴ニ防止
 スヘシ
 (3) 右ノ措置ハ實現迄、米兵ノ慰安所出入ハ之ヲ禁止ス
 之ニ對シ、本官ハ笠原警察署長及、其ノ他關係者ノ意見ヲ
 徴シタル上、「カ」司令官カ示セル各項ノ意思圖ニ添フヘシ、全力
 ヲ盡スヘキ旨、回答セリ
 三、本件ニ關スル見透シ
 接客婦函檢診ノ結果、更ニ罹病者數増加シ、十軒以
 内ノ慰安所ニ收容スヘキ米軍ノ希望スルカ如キ健康者ノ
 人員(約三十名)ヲ得ルハ、事務上困難ナルヘシ
 三、本件ニ關スル本官ノ意見
 カニングハ、准將ハ意見發表ニ際シ、不健康ナル接客婦
 ノ意外ニ多キハ、日本側當局者ノ不誠意ニ據ルモノナリト

外務省

シテ之ヲ難詰セルニ鑒ミ今後カ准將ニ招致セラルル場合ニハ
 本官トシテハ先ツ接客婦ニ關スル秋官憲ノ從來ニ於テハ
 取締權限ニ付之ヲ法律的ニ又慣行的ニ説明ヲ加ハ
 了解ヲ求ムル所存ナルモ米兵ハ慰安所出入ヲ以テ強
 レト公然Salesmanshipノ觀念ヲ以テ取扱ヒ居ル
 状態ニ鑑ミ既ニ十月二十二日附勅令ヲ以テ「花柳病豫
 防法特例」ノ公布アリタルモ之カ以テ實施ニ當リテハ特ニ
 藥品等不足ノ折柄舊套一新積極的ナルヲ要スルハ
 尚館山市ニ於テハ今回館山市長ヲ中心トシ發言家宗里有
 長、保健所長、館山市醫學會支部長並ニ專門
 醫師 其ノ他ニヨリ館山市花柳病豫防委員會會發足
 シ逐次具體的對策ニ出スルキモノト認メラル
 以上慰安所ニ關スル當方面ノ實狀報告申進ス

外務省

0318

館公第七六號
 昭和二十年十二月五日
 終戰連絡中央事務局總裁兒玉謙次殿
 館山市ニ於ケル進駐軍慰安所ニ關スル件
 本件ニ關シテ是曩ニ十一月四日附館公第七六號ヲ以テ
 報告セル處ニモ十二月四日米軍醫官官ニ依リ前回
 檢診ノ結果一應健康者ト診斷セラレタル二十三名ニ付
 檢診ノ内七名ノ健康者ヲ得、更ニ日本側（館山保健所
 長矢崎科郎 治療醫田村利田カ）ニ依ル檢査鏡檢査
 ノ結果 最後ニ僅カ一名ノ健康者ヲ止メシニスキス
 仍テ本官ハ十二月五日矢崎保健所長・依田囑託



0319

外務省

A1002

一部

白

一

ト共ニガニンケハム准將ヲ往訪。右結果ニ付、
 拙信(館公第セ六號)ニ於テ報告セル通り、ガニンケ
 ハム准將ノ授キセル十軒以内ノ家ニ健康者三十三名
 ヲ收容シ、以テ米兵専用ノ慰ム女所ヲラシムヘキ事案
 ニ事案會上應ニ難キ旨ヲ速ハタル處、ガ准將
 ヨリ左ノ意見申渡サレタリ

(一) 總テノ慰ム女所ニ米兵ノ出入ヲ禁止スヘキコト

(二) 接客婦ノ外出殊ニ其ノ夜間外出ニ際シテハ
 米兵ノ眼ニ觸ルヲ避クヘキコト

然ラサレハ米兵ニヨリ運行セラルルモノ事モアリ得ヘシ

(三) 毎週一回、檢診ヲ續行シ、其ノ結果ヲ米係官ニ
 報告スヘキコト

仍テ右次第ヲ館山警署署長及市當局ニ傳達シ

外務省

業者及市役所側ノ善處方本官ヨリ希望シ、
 目下ノ處別ニ妙案ヲ次第ナリ
 右報告申進ス

外務省

總務課
終戰總務部
館連第九〇號

二十五年十二月十八日

終戰連絡館山地方事務局長 林安委

館山地區進駐軍交代ニ關スル件

十二月十七日 本官上京出張ノ了解ヲ得 旁々米第百十二
聯隊係官「リグス」少佐 (Major Riggus) ヲ訪問セル處
未タ確定セザルモ 米第百十二聯隊ハ爰 西三週間中
當地出發ノ運トス可シ 其ノ交代トシテ他部隊當館山
地區ニ來ルヘキモ 其ノ兵員數ニ從來ヨリハ相當縮サセラ
ルヘシ

且ツ 該部隊ハ千葉縣ニ隣接セル地域ヲモ併セ管轄



0322

スヘキヲ以テ 其ノ主力ハ千葉ニ移轉スヘキヤモ知リス
何レニイルモ 確定次第早急當事務局ニ通知スヘキニ付
語レリ

右確報ヲ待テ當事務局長機措ノ改變又是等モ必要アル
ヘキニ付米軍以上ノ内報不取敢報告申進ス

0323

外務省

總務部一係

館連九四號

昭和二十年十二月三十一日

終戰連絡館山地方事務局局長 林

終戰連絡中央事務局總裁児玉謙次殿

館山地區進駐軍交代ニ関スル件

十二月二十日午後任千葉縣知事、カニンガハム准將
 (Brigadier General Cunningham) 後任タル米
 第一百十二聯隊指揮官「ミラー」大佐 (Colonel A.H.
 Miller) ヲ往訪新任ノ挨拶ヲ交換ス
 其時「ミラー」大佐「知事同伴ノ本官ニ對シ語ル
 處」ニ通シ

一、來年日十々第百十二聯隊ハ米本國ニ歸還ス

連 20.12.27 秘書課

20.12.26

館山連 局長印

事務
交代
終戰
連絡
一部

具
一
次

A-1-0-2

外務省

ルコトナリ其レト交代ニ米第八軍所屬ノ騎兵
 部隊 (既ニ本邦ニ駐屯中ノモノ) ハ「日立航空機
 株式会社千葉新製作所」内ノ兵舎ニ本部ヲ置
 キ館山ニ其ノ一部隊 (數百名ノ小部隊ナリ) ヲ
 駐屯セシムルニ過キサルヘシ
 二、軍政部モ前述前通リ本部「千葉」ニ置キ
 ハキモ支部ヲ館山及水戸 (茨城縣ヲ管轄ス) ニ
 置キストナリハシ
 仍テ本官「ミラー」大佐ニ館山地方事務局ノ機
 構ニ付御意見アリヤト尋ネタル處 右ノ邊下口
 日本側ノ決定スヘキ處ナルモ 後任米軍指揮官
 ト協議ノ上決定スヘキ問題ナリト思フスト答ヘタリ
 高橋官「リグズ」大佐 (Major Riggs) ニ對シ

外務省